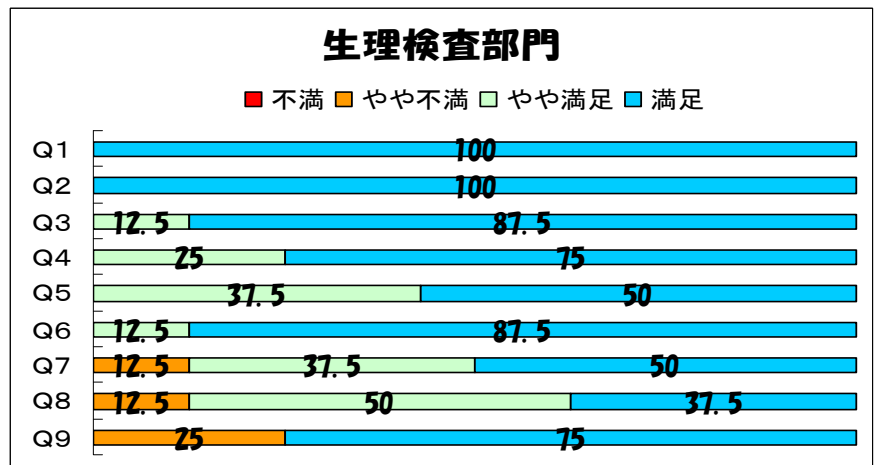
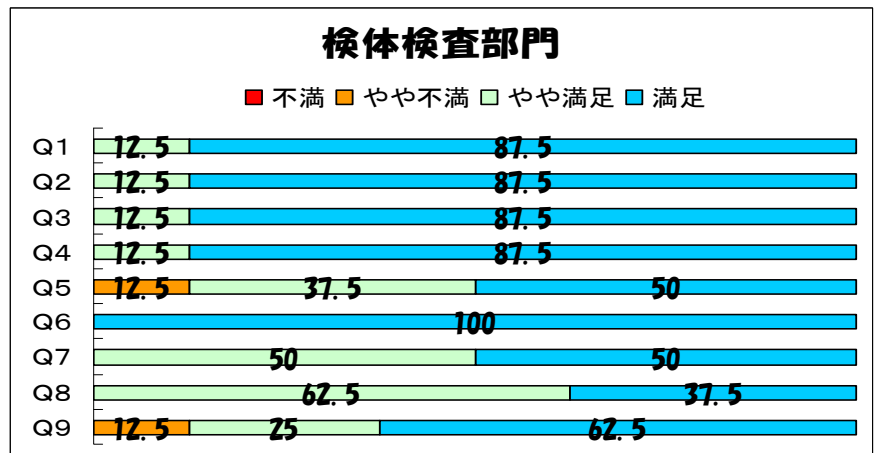


臨床検査課対象医師満足度調査

1月に実施した医師満足度調査の結果です。

- Q1. 電話対応
- Q2. 接遇
- Q3. 問い合わせの対応
- Q4. 問い合わせの回答時間
- Q5. 結果報告時間
- Q6. 実施項目、項目数
- Q7. 技術、知識
- Q8. 臨床情報の提供
- Q9. 他部署との連携
- Q10. 要望

- ・結果報告はもう少し早くでないものか（検体）
- ・技術、知識に個人差があると思います（生理）
- ・他部署ともう少し積極的に関わってもよいのでは（生理）
- ・もう少し積極的に情報発信して欲しい（生理）



ABC 検診について

胃がんのなりやすさを調べる血液検査法—ABC 検診—

胃がんは慢性胃炎によって胃粘膜が荒廃した萎縮性胃炎の方に発生しやすいがんです。慢性胃炎はヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）の子供の頃の感染によって発生、進行します。これらの状態は血液検査によって調べることができます。ピロリ菌感染の有無はピロリ菌抗体で、萎縮性胃炎の有無は血清ペプシノーゲンで調べます。これらの血液検査結果から胃がんになりやすさ（胃がんのリスク）をABCの3群に分類します。

A群：ピロリ菌感染がなく、慢性胃炎もない健康な胃。

胃がんの危険性はほとんどない。

B群：ピロリ菌に感染しており慢性胃炎はあるが、

胃粘膜萎縮は進行していないやや弱った胃。

胃がんの危険性は少ないが有りうる。

C群：ピロリ菌に感染しており慢性胃炎による

胃粘膜萎縮が進行した胃がんになりやすい胃。

胃バリウム検査と比べ一度の採血で済むため受診者への負担が少ない、費用対効果が高い、胃がんの二次予防のみならず、一次予防にも貢献し得る。など、様々なメリットがある検査法です。自覚症状がなくても胃に不安がある患者さんにお勧めしてはいかがでしょうか。

ABC分類		ヘリコバクター・ピロリ抗体価検査	
		陰性	陽性
ペプシノーゲン検査	陰性	A群	B群
	陽性	C群	